座間市立入谷小学校　校長室通信　NO.20　　2022.9.20（火）
校長　山﨑　聡子

笑顔いっぱい　かがやく入谷っ子

１年生の遠足を通して

９月１６日（金）に１年生の遠足を行いました。遠足場所は，海老名市にある三川公園です。相模線の入谷駅から海老名駅まで，一駅乗車し，徒歩で三川公園に向かいました。

１年生になって初めての遠足に，わくわくした思いでいっぱいの子供たちでした。前日に，１年生の教室に行った際，子供たちが，「明日の遠足楽しみ」「 今日の夜は眠れないかもしれない」等，瞳を輝かせて話していました。

三川公園では，アスレチックで遊んだり，広い芝生の中で寝転んでみたり，坂になっている芝生の所では，下まで転がってみたり，虫を探したり，木や落ち葉を集めてキャンプに見立てた遊びをしたり，「 この落ち葉，色が綺麗」と言って，じっと見ていたりと，いつもとは異なる遊具や自然の中で，思いっきり活動し，充実した表情をみせていました。いい天気の中でのお弁当も子供たちにとって最高の時間となりました。

行き帰りの移動中も素晴らしかったです。帰りの海老名駅では，改札を通る時に，駅員さんにしっかりと挨拶をしていました。また自分たちが道路を渡る時に，待ってくださっている方に「ありがとうございます」と伝えていた場面もあったと引率していた教員から嬉しい話もあがっていました。入谷駅まで続く稲穂を見て，「お米ができるんだよね」「たくさんお米ができてる」と話したり，海老名駅から三川公園までの間にも稲穂がたくさんあるのを見て，「 ここにもお米がある」と発見したり，川が見えれば「魚がいる」と目をきらきらさせながら友達同士で確認しあったりしていました。一つ一つの出来事を通して一人一人の気付きがあり，素晴らしさが引き出されます。遠足を通して，それぞれがもつ良さに触れ合い，お互いがさらに豊かになっていく貴重な時間になったことと思います。

自分の五感を使いながら，今に集中して活動している子供たちの素晴らしさにたくさんのことを教えられます。

以前，目にした文章がふと頭をよぎりました。目が見えない，音が聞こえない，話ができない状況を抱えていたヘレン・ケラーが，森の中を散歩して自宅まで訪ねて来た友人に「何を見てきたのか」と尋ねた際，その友人は，「別に何も」と返答をしたとのこと。ヘレン・ケラーは，その返事に非常に驚いたという内容です。この話とは逆に，余命いくばくもないある癌の方が外出した際に，そよ風が頬にあたることに幸せを感じるという話を伺ったことがあります。

私たちの身の回りに何気なくあるものが，実はかけがえのないものであるにもかかわらず，そのことに気付かなかったり，忘れてしまったりするのは，当たり前に慣れてしまっているからであろうと思います。

今回，１年生の子供たちと一緒に遠足に行き，子供たちの素晴らしさに触れる中で，日常の中にある当たり前に感謝すること，良きものを積極的に捉えて見ていくことを大切にしていきたいと改めて思いました。

私たち大人は，子供たちを通して，本質に気付くことができる瞬間が多々あると考えます。感性豊かな子供たちと共にいられることに感謝しながら歩んでいきたいと思います。